

## 支出項目

## 政務活動費

## 調査研究費

No.1

29 月	年 日	内容	支出額 (円)	累計額 (円)
11	14 15	行政視察 (清川村、山北町)	5,340	5,340
		合計	5,340	

# 政務活動報告書

平成30年2月13日

茅ヶ崎市議会議長  
白川 静子 様

(会派名) ゆうえい会  
(氏名) 藤村 優佳理

政務活動の結果は、次のとおりでした。

日 時	平成29年11月14日 平成29年11月15日 両日日帰り
目的地 (研修地)	・道の駅清川(11月14日) 神奈川県愛甲郡清川村煤ヶ谷2129番地 ・道の駅山北(11月15日) 神奈川県足柄上郡山北町湯触217
政務活動の結果(別紙のとおり)	



# 視察報告書

平成30年1月10日

報告者：藤村 優佳理

1. 視察日時：平成29年11月14日（火）10：30～
2. 場所：清川村道の駅（清川村交流促進センター「清流の館」）
3. 視察者：藤村優佳理
4. 清川村出席者：清川村産業観光課 [REDACTED] 課長
5. 視察事項：道の駅について

清川村概要：面積 7,124 km<sup>2</sup>、人口 3,133 人（平成27年10月末現在）。

神奈川県北部に位置し、県内の市町村では最も人口が少なく、神奈川県唯一の村。

北部の宮ヶ瀬地区と南部の煤ヶ谷地区に分かれている。

宮ヶ瀬地区には関東屈指の貯水量を誇る宮ヶ瀬ダムが存在しており、国から年間約8億5000万円のダム所在交付金があるため財政状態は健全。2003年度以降、地方交付税の不交付団体である。



## 内容「道の駅について」

### 1. 施設概要

名称：道の駅清川（清川村交流促進センター「清流の館」）

所在地：神奈川県愛甲郡清川村煤ヶ谷 2129

全体面積：3,700 m<sup>2</sup>

管理主体：清川村

整備手法：単独型

線路名：県道64号（主要地方道伊勢原津久井）

開所日：平成27年11月21日

施設内容：1階 販売所（売り場面積 約110 m<sup>2</sup>）

清川村森林組合事務所（指定管理者事務所）

トイレ（24時間利用可能）男性用（ベビーチェア付き）

女性用（ベビーチェア付き）オムツ替え用  
ベット1台

障害者用

2階 販売所（売り場面積 約 82 m<sup>2</sup>）

無料休憩室・情報コーナー（24 時間利用可能）

小会議室（和室）有料施設

トイレ 女性用（24 時間利用可能）

第一駐車場（24 時間利用可能）普通車 69 台、大型車 1 台、2 輪車用スペース、  
EV 充電器

第二駐車場（24 時間利用可能）普通車 6 台、大型車 1 台、障害者 1 台

公衆電話 1 台

無料公衆無線 LAN 環境

デジタルサイネージ 1 基

立看板（観光案内、施設案内）

## 2. 道の駅「清川」基本コンセプト

①魅力ある拠点を創出し、村民生活の利便性、快適性、安全性を向上する。

②来訪者を増やして村外活力を呼び込む

↓

既存施設・制度の活用により初期投資を抑制し、効率的・効果的な地域拠点を創出

↓

既存施設が効率的・効果的に活用できる「煤ヶ谷地区」においてブランド力を備える  
道の駅を配置し、多機能型地域拠点を創出する

## 3. 道の駅「清川」の役割について

①地場産品の販売で地域の活性化

②コンパクトシティ

③観光を通じた村と都市住民の交流の場



## 4. 考察

神奈川県に 3 か所ある道の駅で、今回は県内

3 番目に開所した清川村に視察しました。宮ヶ瀬ダムへの観光客や山梨県へ続く中央道な  
どの通り道に面しており、ドライバーの休憩所としても、また、地域住民の買い物や憩い

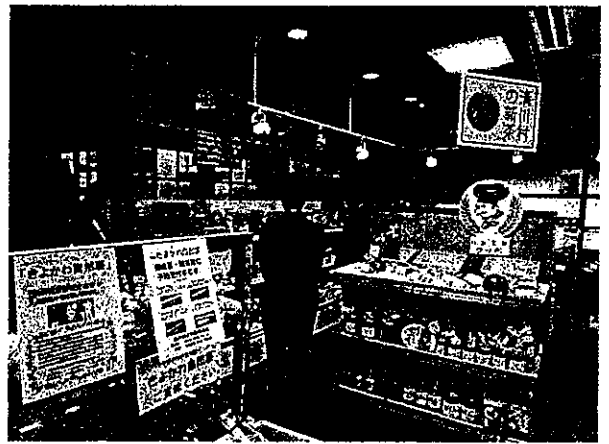
の場としても利用されている道の駅でした。

道の駅「清川」のコンセプトに「既存施設・制度の活用により初期投資を抑制し、効率的・効果的な地域拠点を創出」と掲げられているとおり、平成8年に建てられた既存の施設を利用し、道の駅に必要な整備経費は極力抑え、トイレの整備、駐車場から施設までの動線をバリアフリーへ整備、そして道の駅の看板作成など約2,700万円で開所されました。

隣接する施設は、村役場や農協、駐在所、消防署、幼稚園、保育園などがあり、利便性の良い場所に位置しています。

村に唯一のコンビニエンスストアが閉店してしまったため、生活雑貨などの日用品や食材の購入ができるコーナーを設けており、村民の生活拠点として、村民が憩うコミュニティの場としても利用できる場として利用されていました。

店内には、地域で採れた野菜や果物の他に、地域ブランドの豚肉、道の駅開所に合わせて作ったお茶入りの焼酎とお茶のアイスクリームが販売されていました。海産物がなかったため、真鶴から魚の加工品を仕入れていました。



苦労されている点は、野菜が高騰してもなるべく価格変動をしないように農家さんに協力をいただいて提供しているため、多めに仕入れても午前中で売り切れてしまうことがあるそうです。農家さんの高齢者問題もあり、1日に2回の仕入れはなかなか難しいようで、人を呼ぶために価格努力をしても品切れになれば買うものがないと声が寄せられてしまう…といった「地場野菜の安定した供給」という事でした。



また、現在はイートインコーナーがないため、食事時に来ても買い物と休憩と限られてしまい、立ち寄っても食事をしてお腹を満たすことはできません。しかし、来年度より指定管理者が変更になることや、隣接地にスーパードラッグストアが出店することもあり、店内で販売している生活日用品コーナーと事務所スペースが撤去され、その空いたスパー

次に新たにイートインコーナーを設ける予定だそうです。

清川村の道の駅は、既存施設から「道の駅」と名称が変わっただけで、来客数は2倍となり、登録生産者も年々増え、村としては道の駅の存在はとても大きく、そして「道の駅」は活性化という点でとても大きな役割を持っているとのことでした。

しかし資金面では、なかなか採算が取れず、利益を追求することは難しいようで、施設の規模の大小に関係ないようです。

茅ヶ崎の道の駅も、計画書には予想利用者数が約車141万台×1台あたりの利用金額1,000円と算出していますが、地元や近隣市の特産品などを毎日どれだけ一定に供給できるか、また、トイレ休憩以外に寄りたいたいと思う魅力ある施設、リピート利用者獲得のためのイベント企画など継続して利用者数の維持をしていくことができるかが課題だと思います。

以上

# 視察報告書

平成30年2月13日

報告者：藤村 優佳理

1. 視察日時：平成29年11月15日（水）10:30～11:30
2. 場所：道の駅「山北」
3. 視察者：藤村優佳理
4. 山北町出席者：道の駅山北 [REDACTED] 駅長
5. 視察事項：道の駅について

山北町概要：面積 224.70 km<sup>2</sup>、人口 10,596人（平成29年12月1日現在）。

神奈川県最西端に位置し、県内横浜市と相模原市に次ぐ町域の広さとなり、大半が丹沢山地である。年間のキャンプやハイキングなどの観光客は約150万人以上。



## 内容「道の駅について」

### 1. 施設概要

名称：道の駅 山北

所在地：神奈川県足柄上郡山北町湯触 317

HP：<http://www.yamakita.net/shopping/detail.php?id=15>

線路名：神奈川県道76号山北藤野線

開所日：平成9年7月19日

施設内容：売店・レストラン

・休憩・情報コーナー

・トイレ（24時間利用可能）

・男性用・女性用・障害者用

・普通車27台、大型車1台、

・障害者3台



## 2. 道の駅「山北」管理体制

施設管理者・神奈川県⇒委託⇒受託者・山北町（建設課）⇒委託⇒清水地区振興協議会

営業時間：午前9時～午後5時

職員雇用：駅長（1名・男・常勤）、山北町長が委嘱

職員（1名・女・常勤）、パート職員（5名・非常勤）

収益方法：①地元特産品の販売（委託販売は手数料20%・出荷組合員の委託販売手数料は15%）桜の花塩漬け、干しいたけ、梅干し、らっきょう、きゃらぶき、ゆずこしょう、足柄茶、地鶏の卵、手作りパン、ジャム

②菓子等の土産品販売（委託手数料29%～31%）地元の製造業者から受託

③自動販売機設置

④たばこ自販機販売

⑤小田原牧場アイス工房

⑥コピーサービス

⑦テナント料 食堂のテナント料

## 3. 考察

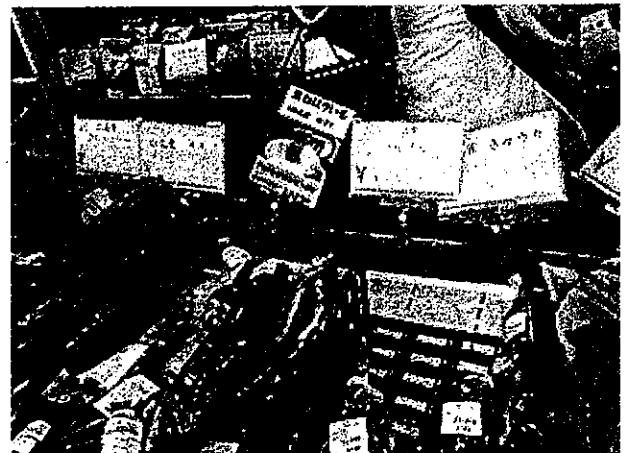
「水と緑に親しむいこいのパーキング」道の駅山北に視察しました。丹沢湖の入口に位置する場所にあり、当日も朝から多くの利用客で駐車場はほぼ満車でした。

元々水車小屋があり、観光客によるごみの不法投棄の温床の場となっていたため、何か対策を講じようと検討していたところ、神奈川県から道の駅設置の打診があったということでした。

平成9年に開設した道の駅「山北」は15年経過した平成25年6月にレストランや売店のスペースの増築や駐車スペースの拡充を行っています。

施設管理者は山北町より委託された清水地区振興協議会が行っており、道の駅の他にオートキャンプ場や公園の管理も行っているそうです。

売店には、たくさんの野菜や果物が限られたスペースいっぱいには並んでいました。よく見ると9割ほどが山北町で採れた地のもので、その日に仕入れができない場合は小田原の農協から業者が仕入れることになっているそうです。地域の出荷組合委員と業者とは委託





販売手数料の差別化を行っています。また、新鮮な野菜や果物を販売するために、その日売れ残った商品は食堂の材料としても取り扱わず生産者へ返品となるそうです。生産者の高齢化と跡継ぎ問題のために一定の品揃えを維持するのがとても苦労しているそうです。

山北の自然薯は有名で、1年前から予約を受け付けていて店頭には並ばない種類もあるほどの人気だそうです。部落で作っているらっきょうや梅干しなど加工された物も販売して

いますが、道の駅にはお酒を販売する資格者と道の駅で加工する資格がないために、キャンプ場の利用客からお酒の取り扱いを求める声があっても対応することが出来ない状況、野菜や果物をカットすることができないので白菜などの大きい物でもそのまま販売しているそうです。清川村は焼酎やどぶろくなどの販売を行っていましたが、確かに山北町にはビールや地



元のお酒など取り扱っていませんでした。利用客から需要があっても供給できないのは何とも勿体ない話だと思いましたが、今から資格を取るコストなどを考えると難しい実情で、「取り扱わない」としているそうです。やはり、山北も運営の採算は取れず、光熱費は県や町からの補助がなければとても厳しいと伺いました。全国約1,200カ所ある道の駅でも利益を得ているところはほんの僅かでとてもとても難しい…ということでした。

道の駅は開所してもその後の継続や維持をすることが課題であり、その地域の特産品など取り扱う商品も一定の確保が必要であることがわかりました。

茅ヶ崎も圏央道が開通し、江の島や鎌倉、小田原へと観光客が流れてしまう前に道の駅で休憩して利用してもらおうということですが、圏央道の利用者も現在それほど多くはなく、海への観光客を呼び込むには少し距離がある。公共機関もない。柳島スポーツ公園利用者の駐車場として利用されてしまうのではないかと危惧されます。視察した道の駅より立地条件は良いとは言い難く、どこが委託をされるのか、どのように運営をしていくのか、何を特産品として販売するのか、また一定の供給は維持していかれるのか。視察で伺った話と照らし合わせながらこれから具体的に決まっていく詳細について、動向を注意深く見ていく必要があると考えました。

以上



## 出張旅費計算書

摘要	ゆうえい会 道の駅清川 神奈川県愛甲郡清川村煤ヶ谷2129番地 道の駅山北 神奈川県足柄上郡山北町湯触317  (政務活動費)			出張者 氏名	藤村 優佳理	
	期日	平成29年11月14日(火) 平成29年11月15日(水)			随行者 氏名	
経路	日数	泊数	キロ数	有料道路料金(円)	金額(円)	
自宅—寒川南IC (自家用車)	1	—	28.7	430	2,940	
寒川南IC—厚木IC (自家用車)						
厚木IC—道の駅清川 (自家用車)						
道の駅清川—厚木IC (自家用車)			28.7	430		
厚木IC—寒川南IC (自家用車)						
寒川南IC—自宅 (自家用車)						
自宅—寒川南IC (自家用車)	1	—	50.9	1,040		
寒川南IC—大井松田IC (自家用車)						
大井松田IC—道の駅山北 (自家用車)						
道の駅山北—大井松田IC (自家用車)			50.9	1,040		
大井松田IC—寒川南IC (自家用車)						
寒川南IC—自宅 (自家用車)						
計	2	—	159.2	2,940	(A) 2,940	
日当	2	日×@	1,200	(B)	2,400	
研修費		日×@		(C)	0	
合計	(A)+(B)+(C) 5,340	×	人 1	=	5,340	